

# 主な復興事業の進捗状況と今後の予定 (第28回:テーマ「復興まちづくりの姿(半島部)について」)

毎月15日号では、主な復興事業の進捗状況と今後の予定をお知らせしています。

今回は、半島部の復興まちづくりの姿について、防災集団移転促進事業の進捗状況や被災低平地の整備方針等を紹介します。

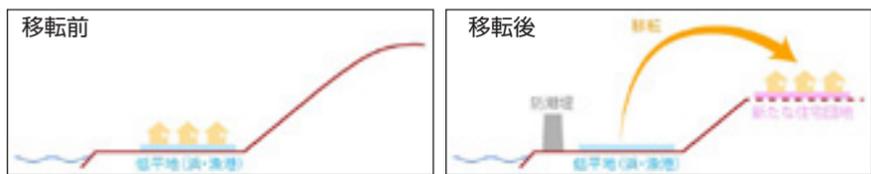
平成26年11月末時点の半島部の防災集団移転促進事業の状況として、全46地区中45地区で事業に着手し、そのうちの6地区は工事が完了済みで、全体の予定整備戸数は約1,260戸となっています。

また、被災した低平地(浜・漁港)についても、その在り方や土地利用計画の案等の検討を開始しています。

## 半島部の復興まちづくりの考え方

半島部では、災害が発生した低平地の区域を、高台や内陸部へ集団で移転する防災集団移転促進事業を促進しています。

なお、移転先の候補地の選定や防潮堤の有無等に関しては、住民の皆さんの意向を十分に反映しながら検討を進めています。

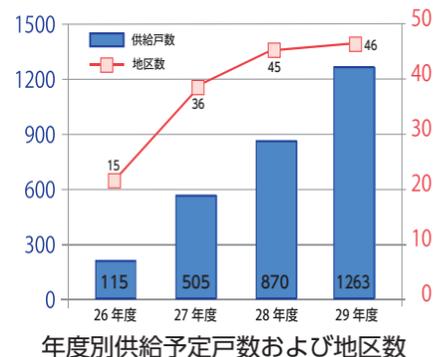


移転前・移転後のイメージ図

## 新たな住宅団地の整備



(高台住宅団地のイメージ図)



年度別供給予定戸数および地区数



(北上地域)小指地区(9月時点)



(雄勝地域)羽坂・桑浜地区(10月時点)



(牡鹿地域)鮫浦①地区(10月時点)



(牡鹿地域)前網浜①地区(10月時点)

## 被災した低平地(浜・漁港)の復興



被災浜の復興イメージ図



復旧工事が完了した給分漁港

## 農業の復興

除塩作業による農地復旧と併せて持続的、発展的な農業を目指して、「個別から共同へ」効率的な農業経営を目指します。



共同利用機械の整備



完成した共同乾燥調製施設(カントリーエレベーター)

## 河北・雄勝・北上地区



## 石巻・牡鹿地区



# 低平地の在り方検討について

半島部の現状として、防災集団移転等は進んでいますが、作業場や事務所の再建場所が失われたままであり、不完全な職住環境となっています。被災低平地は、広範囲の地盤沈下によって排水不良が生じており、土地利用が困難となっていることから、被災低平地整備の基本方針を次のように掲げています。

**被災低平地の基盤整備を行い、職の場として再建可能な環境を創出し、浜の職住近接を目指す  
かさ上げ・水路整備によって排水不良を解消し、土地利用の検討を行う**

## ○ 被災低平地整備の考え方

**【被災低平地の現状】**  
 ・震災による地盤沈下、漁港・道路等のかさ上げ復旧による排水不良地の発生  
 ⇒海岸背後地の地盤全体のかさ上げや水路改修が必要

**【基本的な考え方】**  
 ・豪雨と満潮が重なっても低平地が冠水しない安全な地域とする  
 ⇒水路整備とともに宅地のかさ上げ整備を行う



さらには、かさ上げ後の土地利用として漁業者に関わる水産関係用地や地元の皆さんが継続的に利用する民間活用地、地元管理を基本とした広場・駐車場等の検討を行う

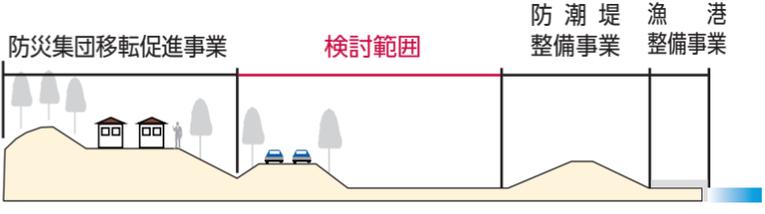
## ○ 検討のイメージ

**STEP1 『排水不良等の状況確認』『関連計画等の状況確認』**

- ・地盤沈下によって排水不良となった場所を特定します。
- ・先行してかさ上げが行われている漁港・道路等と周りの土地の高低差を把握します。
- ・県道事業等の関連計画や現在の浜の再建状況等を含めた状況把握を行います。



現況写真



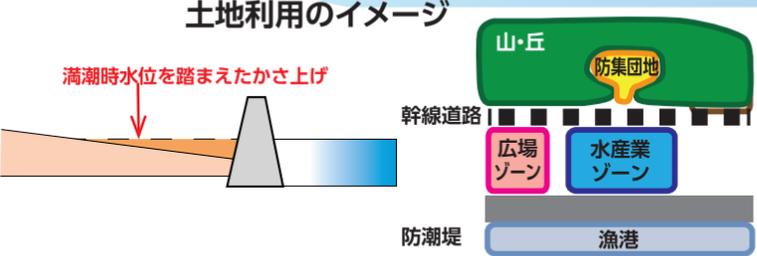
検討対象範囲

地元懇談会は随時実施していきます

**STEP2 『盛土計画・土地利用計画案の作成』**

- ・排水不良解消のための盛土計画や必要な土地利用を検討し、素案を作成します。

**土地利用のイメージ**



**STEP3 『地元懇談会の開催』**

- ・平成26年11月から地元懇談会を実施しており、皆さんから意見をいただいています。




懇談会の様子

『土地利用計画策定』